



たイタリア映画の大物俳優たちであった。オーラは多くの持ち歌のヒット曲を歌い、この作品のハッピー・エンドの場面で「愛は限りなく」を歌っている。この歌が終わると、キスと抱擁でふたりは愛を誓うのである。僅か2年前にはまだオーラが“年端も行かなかった”ことを考慮したうえで、このキス・シーンが撮影されたのかどうかを、新聞はクランクアップの日まで質問し



続けていた。この映画は、特に南米の国々では、まさに崇拜されるほどの人気映画となり、しばらく経ってからビデオも発売されたブラジルでは、絶対的な売上の三大作品のひとつとなった。他の2作品は『薔薇の名前』と『タイタニック』である。

『愛は限りなく』の後、オーラは2本目の映画出演の申し出を受ける。今度は異なるジャンルの映画で『おろか者 (Testadirapa)』というタイトルであった。ジャンカルロ・ザーニが監督した同映画の中で、オーラは19世紀の若い学校の先生を演じている。彼女と共演したのは“おろか者”の怒りっぽい農夫を演じたフォルコ・ルリとその息子を演じた小さなフェデリコ・スクロボーニャであった。この父親が刑務所に入ってしまうと、幼い息子の世話をし彼を人生に立ち向かわせたのが、オーラが演じる若い先生である。映画館

で公開される前に、このフィルムはヴェネツィア国際映画祭の青年部門で銀の獅子賞を受賞している。しかし残念ながら、映像が司法制度に対して適切なものではないという理由で検閲され、この映画はイタリアの劇場で上映することを禁じられたため、国外のみで公開されることになった。それでもオーラは「おろか者」、「指は五つ (Cinque son le dita)」「私から (Hai imparato da me)」の3曲で構成されたサウンドトラック盤を録音している。



この年の夏、オーラはコンサートはせず、ヴェネツィアで海水浴を楽しんだり、チェロ・ヴェロナーゼで休暇を取ったりしていた。そこにオーラは別荘を建てようと思っていたのだ。建築学の学位を取るとはあきらめたものの、それでもオーラは個人的に別荘を設計しようと思っていたのである。そして、それはその数年後に実現することになった。

一方で、新しいシングル盤を出すのに苦労していた。オーラはすでにB面には歌と朗読の間のもとても独特な曲を選んでいて、それはジョニー・ドレルリのテレビ番組『ジョニーの夕べ』の試演で発表した「家へは帰れない (Tu non potrai mai più tornare a casa)」であった。オーラはそのA面として、シャルル・アズナブールの「ボエーム (La Bohème)」をイタリア語で録音したいと思っていたのである。ゲスト出演していたパリの番組で、アズナブールが同曲を歌っているのをオーラが聴いていたのだ。当初はアズナブールが許可しなかったものの、その後オーラの要求を飲み、やっとこのレコードが実現されることとなったのである。